

令和 7 年度中予地方局予算事業成果表

1 基本事項

- (1) 事業名 次世代かんきつ整備園強化事業費
 (2) 事業期間 令和 7 年度～令和 9 年度
 (3) 所 管 農林水産振興部 農業振興課 地域農業育成室
 (4) 予算額 1,967 千円

2 事業目的

中予地域では、令和元年度から労働生産性の向上や災害に強い産地づくり等を目的に、樹園地再編整備事業等を活用して管内 8 か所(受益面積 59.8ha)でかんきつ園地の復興・再編が進められているが、基盤整備園の土壌は花崗岩のため地力が低く、苗木の初期生育不良や降雨による土壌流亡が発生するなどの問題が生じている。

そこで、基盤整備園の土壌改良と土壌流亡対策を講じるため、緑肥栽培により地力向上を図るとともに、スマート農業技術の導入を推進し、中予地域におけるかんきつ産地の基盤強化に取り組んだ。

3 主な取組（何をしたか）

(1) かんきつ基盤整備園支援

- ・イネ科とマメ科の緑肥作物による草生栽培の効果について確認するため、春播き区で 4 草種（4 地区・11 戸・325 a）、秋播き区で 5 草種（5 地区・13 戸・365 a）を実証した。

(2) スマート農業技術の導入

- ・気象モニタリングシステム「気象ファーム」を設置（1 地区）し、気温、降水量、湿度など 7 項目の観測結果をスマホでリアルタイムに確認可能とした。
- ・ドローン播種の実証を行い、手散布に比べてどの程度作業時間の短縮と省力化が図れるか検証した。

(3) 大玉安定生産に向けた土壌改良支援

- ・苗木定植時の「くらげチップ」や「バイオ炭」など未利用資源の土壌改良の有効性について実証した。



図 1 緑肥作物実証ほ



図 2 ドローン播種実証

4 成果（何がどう変わったか）

- イネ科は「テフグラス」、マメ科は「ヘアリーベッチ」が発芽良好で生育も優れ、有望品目であることを確認した。また早期に土壌を被覆することで、土壌流亡防止効果と有機物の供給効果が高まり、土壌環境が改善した。
- 気象モニタリングシステムにより、降水量に応じた適期防除が可能となった。また、ドローンによる播種作業は 10a あたりの散布時間が 2.5 分となり、手散布（60 分）に比べて労働時間が大幅に短縮できた。
- 「くらげチップ」施用区では、土壌中の肥料含有量を示す EC (mS/cm) が 0.08 から 0.18 に、土壌中の有機物含有量を示す腐植含有率 (%) が 0.4 から 2.1 に上昇するなど、土壌環境が改善したことを確認した。